

平成29年度学校経営計画

国立市立国立第五小学校

教育目標	○学びあう子(本年度重点目標)	助けあう子	きたえあう子
学校経営の基本理念	目指す学校像	教師の基本姿勢	
「関わりの中で高め合う児童の育成」 一人一人の子供たちに、「自立」と、「自律」の力を身に付けさせ、相互依存でない、真に『学びあい、助けあい、きたえあう』子供たちを育てていく。そして、そのために教職員自らが互いに切磋琢磨し、子供たちと共に高め合う集団となる。	(1) 児童が目を見ずして登校し、真剣に学び合い、友だちや先生と仲良く元氣いっぱい過ごす笑顔あふれる学校《子供の姿》 (2) 全教職員が教育公務員としての自覚と使命感、誇りをもち、共通の目的に向かって、創造的に協働し、互いに切磋琢磨して人間性と専門性を磨き合う学校《教職員の姿》 (3) 保護者や地域社会との相互理解、連携を図り、学校のもつ教育力を家庭・地域社会のために積極的に生かし、共に子どもを見守り、育てていく学校《保護者・地域からみた学校の姿》	(1) 子供の世界や感性を尊重する。 (2) 授業力の向上を常にめざす。 (3) 指導の基本を大切に、全教員で徹底する。 (4) 信頼ある開かれた学校づくりに努める。 (5) 意識の変化に対応できる学校づくりに努める。 (6) 今あるものを常に見直し、改善につなげる組織となる。	

◇ 専科教員を含め全教員で取り組む ■ 全教員で取り組むが成果確認は担任が行う 無印 担任が取り組む

領域	中期経営目標(カッコの数字は経営方針の番号)	短期経営目標	目標達成のための方策	成果指標	5月	10月	2月	成果確認方法	
学びあう子「確かな学力の向上(本年度重点目標)」	○教員の指導力向上(②)	①◇返事をし、「です」「ます」「思います」「からです」など、語尾までしっかりと言うことのできる児童を育成する。	○定型を各学級で掲示し、返事から発言の最後まで、はっきりと話すことができるよう指導していく。 ○学年の発達段階に応じて、定型を増やしていくとともに自身の考えを適切に表現できるように指導する。 ○全校朝会等で呼名された際に返事をしよう各学級において指導を行うとともに、返事をした児童を称賛し、行動の価値付けを行う。	A 身に付いた児童が、70%以上 B 身に付いた児童が、60%以上～70%未満 C 身に付いた児童の増加が60%未満	/	/	/	教師の児童観察による評価	
		②◇自分の考えをもち、それをはっきりと伝えることのできる児童を育成する。	○考えを形成するために必要な基礎的・基本的な指導事項の定着を図る。 ○発問を工夫し、全員が挙手できるような場面を授業に取り入れる。 ○発達段階に応じた基礎的な話し方から、話すことができるように国語科を中心に指導を行う。 ○教師が模範を示しつつ、子供の発言を最後まで聞く姿勢をもち、 ○児童がお互いの意見を傾聴する態度を育成する。	A 音声言語によって発言できている児童が70%以上かつ自分の考えを伝えられたと感じている児童が70%以上 B 音声言語によって発言できている児童が50～70%または自分の考えを伝えられたと感じている児童が50～70% C 音声言語によって発言できている児童が50%未満かつ自分の考えを伝えられたと感じている児童が50%未満				教師の児童観察による評価 アンケートによる児童の自己評価	
		③学年配当の漢字の読み書きと基本的な計算の仕方を身に付けた児童を育成する。	○ベーシックドリル等を活用しながら、前学年までに配当されている漢字の読み書き、計算の練習をさせる。 ○漢字の読み・筆順・熟語の確認・繰り返し書き取り練習を毎日取り入れ継続する。 ○算数科において、習熟度別人数指導を進める中で、基礎的・基本的な計算の仕方を定着させる。	A 国語・算数の平均正答率が、それぞれ85%以上 B 国語・算数の平均正答率が、それぞれ80%以上 C 国語・算数の平均正答率のいずれかが80%未満				ベーシックドリルの平均点での評価	
		④◇正しい鉛筆の持ち方を身に付けた児童を育成する。	○毎月第1週目は「えんぴつの1週間」とし、「OKマークをくるとまわしてなかくひまくら」を全学級で確認させ、意識の向上を図る。 ○正しい鉛筆の持ち方ができない児童には、補助員の使用を呼び掛け、正しい持ち方を定着させる。 ○正しい鉛筆の持ち方を心がけるよう、日ごろから声をかける。	A できるようになった児童が15%以上の増加 B できるようになった児童が10%～15%増加 C できるようになった児童が10%未満の増加				37.6%	教師の児童観察による評価
		⑤「くにごメッド」に則って、根拠のある仮説を立てることができ児童(3・4年)、学んだことを振り返って考察を書くことのできる児童(5・6年)を育成する。	○仮説 ①文型(話型)を用いて表現させる。 ②記述の観点を与える。 →学んだことを活用し、思考力・判断力・表現力を高めさせる。 ○考察 ①記述の観点を与える。 ②記述した文章を友達と交流させる。 →学んだことを振り返り、思考力・判断力・表現力を高めさせる。	A 教師設定基準を達成した児童が10%以上の増加 B 教師設定基準を達成した児童が5～10%増加 C 教師設定基準を達成した児童が15%未満の増加				仮説(中) 63.6% 考察(高) 40.6%	ノート分析による評価
助けあう子「豊かな心の育成」	○自己肯定感をもち、他人も大切にできる児童の育成(①) ○社会の一員であるという自覚と規範意識をもった児童の育成(⑤)	⑥◇仲間外れや相手の嫌がる言葉遣いなどのいじめをしない児童を育成する。	○年3回「いじめアンケート」を実施し、聞き取りを丁寧に行い、全職員で予防策・早期発見に努める。 ○人権月間に、ビデオ・DVD教材を活用し、自分や他の命を大切にしようとする児童の態度を育む。 ○5年生全員とスクールカウンセラーの面談・給食交流を実施する。また、年度当初に「心のアンケート」を実施し、児童理解に努めるなど、相談しやすい環境を整える。 ○「わたしの行動宣言」を各学級で話し合い、いじめのない学級にしようとする態度を育む。	A いじめをしない児童が100% B いじめをしない児童が90%以上 C いじめをしない児童が90%未満	/	/	/	児童観察・聞き取りによる教員評価 学期ごとに実施するいじめアンケートによる児童の自己評価	
		⑦◇自分を大切に、自分に自信がもてる児童を育成する。	○自尊感情アンケートを実施し結果を基に個々に合った自信の持たせ方を教職員全員で共有する。 ○児童の表現活動(文章・発表・作品・演奏・身体等)を交流する場を設け、友達のよさを伝え合い認め合い、互いを大切にしようとする態度を育む。 ○日頃から、保護者と密に連絡を取り合い、児童のよさや、つまずきを共有し、児童に自信を持たせるようにする。	A 自己受容評価1点台の児童が0% B 自己受容評価1点台の児童が1～15% C 自己受容評価1点台の児童が16%以上				6% 19/326	6月と2月に実施する児童の自己受容アンケートによる自己評価 児童観察による教員評価
		⑧◇すれ違った先生や外部の方に、適切な(明確な声・一度あいさつした人には黙礼など)挨拶ができる児童を育成する。	○各学級で年間通して取り組む「あいさつ宣言」を決め、めあてを明確する。また、毎学期末には、めあての振り返りを行い、目標達成に向け、進んであいさつをする児童の育成に努める。 ○6年生のあいさつ当番の活動を活発にし、全校児童の手本となるように育む。 ○相手に聞こえる声で、はっきりとした言葉であいさつをしたり、黙礼したり、場に応じたあいさつができるように育む。	A 95%の児童が身に付いている B 90%の児童が身に付いている C 身に付いている児童が90%未満				児童観察による教員評価 学期ごとに実施するあいさつ週間における挨拶カードでの自己評価	
鍛え合う子「たくましい体の育成」	○基礎的な体力の向上(③) ○心身の健康づくりに努力する児童の育成(③)	⑨基礎的な体力の向上に努める児童を育成する。	○年間15回、木曜日の中休みに「ワークアップ」タイムを設定し、クラスごとに、体力向上を図るための運動に、順次取り組ませる。 ○体育委員会による「ワークアップイベント」を学期に1回以上開催し、体力向上を図った運動を、ゲーム感覚で楽しみながら行う。 ○各クラスで1年間を通して行える体育的活動を「一学級一実践」として、設定する。 ○持久力を高めるために、「くにごステップス」をワークアップの前に取り入れる。 ○保健だよりにて、早寝早起き朝ごはんなどの大切さを伝え、保護者への意欲啓発を行う。 ○中休み、昼休みのどちらかは外遊びをさせるようにする。	A 休み時間に外遊びをする児童が85%以上 B 休み時間に外遊びをする児童80%以上 C 休み時間に外遊びをする児童80%未満	/	/	/	78.5% 毎学期、1週間チェックシートによる評価	
		⑩「好き嫌い」をしないで給食を食べる児童を育成する。	○校長講話で、食についての話をし、残菜減量についての意識啓発する。 ○給食指導目標を基に、各学級で声かけをし、残菜減量に向け声かけをする。 ○食育月間で、発達段階に応じた食育指導を行う。 ○児童の実態に応じた残菜減量のための活動を保健・給食委員会で取り組んでいく。	A 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が85% B 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が80%以上 C 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が80%未満				78.9% 給食週間に配布するカードで教員が評価 毎学期、1週間チェックシートによる評価	